

事務局長談話

令和5年8月29日

福島第一原子力発電所のALPS処理水放出にあたって

核兵器廃絶・平和建設国民会議
(略称 KAKKIN)
事務局長 岩附 宏幸

8月24日、東京電力福島第一原子力発電所にたまり続けている処理水の海洋放出が始まった。

処理水の海洋放出については、7月4日に国際原子力機関（IAEA）が、それによる人や環境への影響は無視できるレベルとの報告書を公表している。安全性については国際機関からお墨付きを得ている。問題は風評被害で、人それぞれの考え方、感じ方になる。これに対しては科学的、客観的な説明を繰り返すことが最も有効だろう。例えば、今後政府、東京電力は海域モニタリングを実施するという。その結果をわかりやすく伝えることによって、不安が解消されていくのではないか。また、風評被害対策として漁業者への支援も全力を挙げてもらいたい。

他方、処理水を「核汚染水」と呼び、日本を非難してきた中国は放出開始を受けて、日本の水産物の輸入を禁止した。これは科学的な根拠のない、むしろ政治的な動きである。国際社会に誤解が広がらないよう、政府にはしっかりと対応してもらいたい。

そして大切なことは、私たち自身が処理水の海洋放出のことを科学的に理解し、風評に惑わされないことだろう。海洋放出は本格的な廃炉作業のために避けられない作業である。KAKKINは計画通りに放出が進むことを期待し、情報発信に取り組んでいく。

*ALPS：多核種除去設備

以上

※参考資料：[東京電力労働組合 説明資料](#)